

横根平子のまちづくり通信

2017年9月発刊

vol.14

横根平子のまちづくりを考える会

今回のまちづくり通信はヒメボタル大特集！7月に行った「ヒメボタル調査報告会」の様子や、今年の発光の特徴や詳細をたっぷりお伝えします。5月のある時期、ある時間、幻想的な光を見せてくれるヒメボタル。その姿を追うことで、私たちのまちを見つめ続けます。



私たちのまちは、こんなまち

5/14
(日)

草花と戯れる、春のお散歩。 春の自然観察会と青空カフェ、開催。

今回も解説者は大府自然観察会の飯田さん。植物のあれこれを詳しく楽しくお話してくれました。子どもたちは崖を登り、オオバコ相撲で対決し、お菓子をパクパク。春の横根平子を満喫しました。



次々飛び出す飯田さんの話、興味津々。

白熱するオオバコ相撲！

5/19
(金)

ついに開催！ヒメボタルに会いに夜の里山へ。 ヒメボタル観察会 20時～21時

実際に飛び交うヒメボタルを観察する初めての試み！参加者は総勢31名。発光数は少なかったものの、草むらや竹やぶにピカピカ光る姿に、大人も子どもも大興奮でした。



「ヒメボタルと共に暮らすために」をテーマにグループに分かれて意見を出し合いました。

7/16
(日)

知って、感じて、考える報告会。 ヒメボタル調査報告会 10時～12時

過去3年間の発光生息数調査をもとに報告会を開催。おおぶ文化交流の杜アローブに集まった43名もの参加者は、ホタルの本の朗読に耳を傾け、ヒメボタルクイズに挑戦。その生態や幼虫調査等で知識を深めました。また、ワークショップでは様々な意見が飛び交いました。



当日は「知多メディアス」の取材も。その模様は下記からもご覧になれます(音声入りですのでご注意ください)。
http://www.medias-ch.com/movie_detail.php?page=5705

まちづくりは、今

今年も多くのヒメボタルと横根平子で出会えました！

2017年 ヒメボタル調査報告



今年の特徴

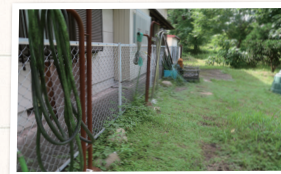
出沒時期 5月11日～31日(例年並み)

発光数 1527頭カウント(昨年の1.5倍)
・実際には目視の5倍ほどは生息すると言われているので、かなり多くのヒメボタルがこの地区に生息していると思われます。

1日に確認できた最多発光数 182頭

- ・竹林では1日に67頭の発光を確認！その光景は素晴らしいものでした。
- ・雨上がりの風のない日に多くみられました。
- ・雨の降る日、風の強い日、月が明るい日には発光数は減少します。
- ・深夜族です。発光数の調査は23時から始めました。
- ・横根平子の広範囲に分布しています。(分布比較図参照)
- ・人家の庭や人家横の草むらなど、身近で様々な場所に生息しています。

ヒメボタル分布比較図



ヒメボタルは私たちのこんな近くに住んでいます。

なぜヒメボタル調査をするの？それは貴重なホタルだからです！

ヒメボタルは恵まれた自然環境の中でしか生息できないと言われています。ヒメボタルのオスは飛ぶことができますが、メスは下翅が退化して飛べません。生息できる範囲は狭く、環境が変化したからといって他の場所へ移動できません。そのため、一度その生息場所を消滅させてしまうと、二度と発生することができないと言われています。また、岡山県では天然記念物、大阪府や名古屋市では準絶滅危惧種に指定されている貴重なホタルです。横根平子地区のヒメボタル生息域は市街地からとてもアクセスがよく、手軽に観察することができる場所です。「ヒメボタル観察会」に参加し、初めてその光を見た子どもたちの生き生きとした姿を目にすると、人々の叡智を集集し、工夫して、この環境を残していく必要性をますます感じました。

考える会は、市に「ヒメボタルの里」づくりの提言をしました(7月5日)。

7月13日(木)の中日新聞にも掲載されました。内容は、報告会告知やこれまでの会の経緯をはじめ、保育園予定地の液状化・活断層の危険性の指摘、「ヒメボタルの里」の提言等です。▶

ヒメボタルと環境を考える会(以下「ヒメボタル会」)は、16日(日)大府市で「ヒメボタルの里」づくりの提言を市に提出しました。ヒメボタルの生息域は市街地からアクセスがよく、手軽に観察することができる場所です。ヒメボタルの生息域は市街地からアクセスがよく、手軽に観察することができる場所です。ヒメボタルの生息域は市街地からアクセスがよく、手軽に観察することができる場所です。

問い合わせ先
横根町平子

鷹羽 0562-46-4380
加納 0562-47-2595

<http://yokonehirako.jimdo.com/>

横根平子のまちづくりを考える会

検索